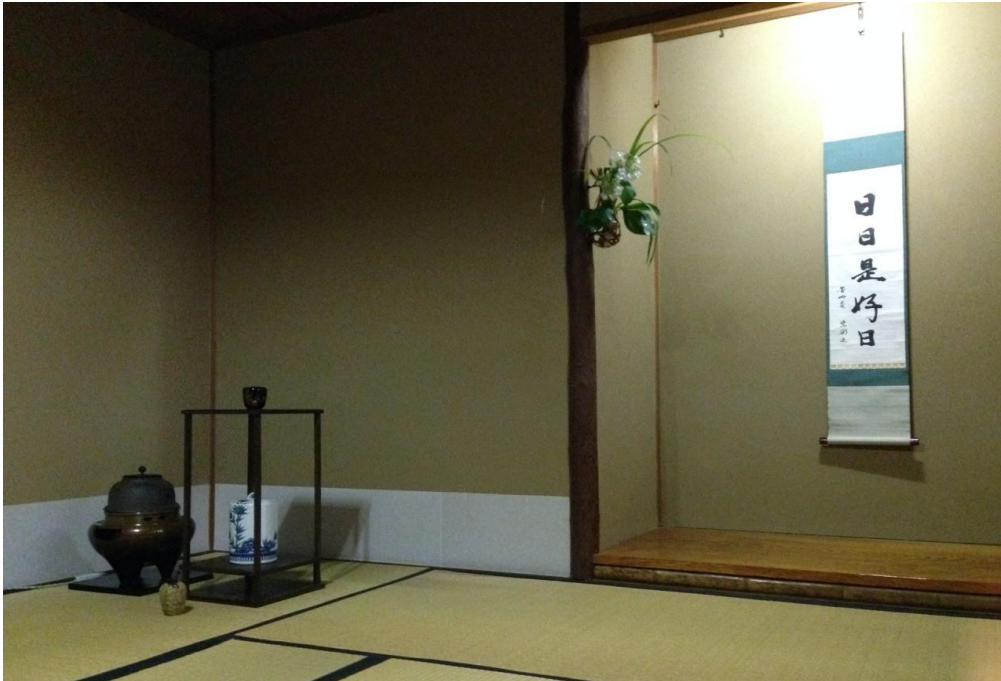


大妻女子大学茶道部 創立 65 周年記念 雪待茶会



茶道部だより
第十二号

2014. 12. 14
【発行】
大妻女子大学
茶道部

【発行責任者】
立崎若菜

本日は、お忙しい中、大妻女子大学茶道部の雪待茶会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

今年の雪待茶会は、大妻女子大学茶道部創立六十五周年を記念いたしまして、大妻高等学校茶道部の皆様と、大妻女子大学茶道クラブ多摩校の皆様にご参加いただき、大妻女子大学茶道部二席とを合わせて四席という、盛大なお茶会を催す運びとなりました。この様な記念すべき年に巡り合えたことを、部員一同大変光栄に思っております。

また、これからも長年続いてきた茶道部の伝統を守りながら、より一層お稽古に励んで参りたいと思います。

至らない点もあると思いますが、楽しんでいただけましたら幸いです。

雪待茶会

「雪待茶会」とは、年に一度、靖国神社境内のお茶室をお借りして催す茶会です。「雪はまだかな」と待っているこの季節に合わせて、昭和五十一年に「雪待茶会」と呼び名がつき、今年で三十八年が経ちます。雪待茶会は立派なお茶室で行われ、文化祭などの茶会とは違った雰囲気があります。

今回の茶会には、洗心亭にて本学茶道部が広間と立礼を、行雲亭にて大妻高等学校の茶道部が広間、大妻女子大学茶道クラブ多摩校が立礼で、それぞれお茶席を設けております。また、この度は点心も付けさせていただきます。行雲亭に休憩所も設けておりますので、ごゆっくりお過ごし下さい。今まで先輩方が大切にしてこられた伝統をしっかり受け継ぐと共に、今年からまた新たな気持ちで、お客様に喜んでいただけるような茶会をと、この日のために頑張っていました。皆様にお楽しみいただけましたら幸いです。

先生方からのお言葉

私たちが日頃お世話になっている先生方に、大変ご多忙な中、執筆していただきましました。心温まるお言葉をいただきました。本当にありがとうございます。



千代田校顧問

町田 宗嘉

十一月も半ばを過ぎると、あちこちから初冠雪の便りが届く。いよいよ冬が到来する。何か身が引き締まり、嬉しくなる。

雪待茶会は今年で六十五回目を迎える。よくこまめで続いたものだと思う。それにしても雪待茶会とは良い名前を付けたものだ。第一にユキマチという音の響きが良い。キラキラとして清潔感がある。そしてその

意味がまた素晴らしい。

十一月になると人はどうして雪を待つのだろうか。雪が降るとなぜ嬉しくなるのだろうか。それは言うまでもなく、雪が幸せを運んで来ることだろう。雪がたくさん降ると、春の雪解けにはたくさん水が田畑を潤す。暑い夏を乗り越えて、秋にはお米がどっさり獲れる。おいしい御飯が腹いっぱい食べられ、みんなの笑顔が見られる。表千家の初釜では常盤饅頭を使うが、これも同じ発想だろう。真白い雪のような玉の中に緑の餡が詰まっている。豊作と千年緑を願っているのだろう。などと勝手に想像を膨らましてみたが、どこまで当たっているだろうか。初雪を待つ茶会が今後も長く続き、人々に幸せを運んで来ることが願っている。



千代田校元顧問

石井 とめ子

大妻女子大学茶道部が創立六十五周年を迎えられたこと、まことにめでたうございます。二十五年前になりますが、私が顧問（昭和六十三年）を引き受けた当時、茶道部の来歴を知る資料がなく、二年後の創立四十周年を迎えるにあたり部長の大野千佳子さん、副部長の佐野麻子さん達の協力を得て祝祭の準備にかかりました。

幸いなことに茶道部の創設時から携われた柳沢信隆先生が（満八十歳）ご健在で茶道部の来歴を知ることが叶い、やっと「茶道部だより」を、創立四十周年に初刊行することができました。

以後、平成十八年に定年退職するまで約二十年間茶の心を通じて日本の伝統文化の粋を学び得る喜びを顧

問として見守ってまいりました。茶室に入れば千利休が示した、しつらいによる美意識に緊張感がただよい対人的な共感に爽やかな安らぎを得ました。

研究で海外に訪れると、いつも日本の伝統文化について質問を受けることが多々あり、世界で羽ばたくには、自国の伝統文化の教養を涵養する大切さを思えばかりです。

その問いに対する指針の一つとして茶道部に期待しております。



千代田校師範

浅賀 宗容

本年は大妻コタカ先生、生誕百三十年目を迎え、大妻学院は新校舎も増えまして大きく飛躍した年となりました。

そして茶道部創立六十五

周年を迎えまして、多摩校茶道部、中高茶道部とご一緒に合同茶会を催すことができました。この上なく喜ばしく、うれしい気持ちで一杯でございます。

歴史を、ひもときますと、大妻学院におきましては一九四九年（昭和二十四年）新制大学のスタートと共に大妻コタカ先生のお考えで茶道部が創立しました。

そして、柳澤 宗淵（そうえん）（信隆）先生が師範として迎えられ、以後四十年間ご指導されました。

当時は学院全体の茶道部です。中学生から大学生まで一緒に稽古されていたとのこと、中学生が大学生の新生に歩き方や座り方を指導されるという微笑ましい光景もあったと、私も大先輩から伺ったことがあります。

一九六六年（昭和四十一年）には茶室「大妻庵」が造られました。

現在もそのままのかたちであります。校舎改築の折、地下1階に復元されたものです。風雨にさらされることなく鉄筋で守られているので、床も壁も障子なども変わらず、美しい状態

を残しています。
大妻庵でのお稽古は穏やかな気持ちになるのが心地よく、落ち着きます。

現在まで茶道部が活動できた背景には大妻コタカ先生はじめ、多くの先生方、先輩方のお力添えがありました。心より感謝申し上げます。

茶道部では十二月の雪待茶会が一年のしめくくりの行事となります。

入学から卒業までの間にはいろいろな活動の中で茶道のみならず、茶会の方法などを体験して習得します。その中で社会人になるための学習と知恵を身につけていくのだと思います。

六十周年以降、卒業生の呼びかけで茶道部OG会も発足しました。時々集い、七事式の茶カフキをしたり、季節によって飾り物をして、茶の湯に親しんでいます。これからもいろいろ取り入れて親しみやすい部活動になることを期待しています。

今年はお茶西禅師(自ら「ようさい」と記しています)(一一四一年～一一一五年)の八百年遠忌にあたります。

お茶西禅師は茶祖とも言われ、日本に茶をもたらし、喫茶の習慣を根付かせました。

禅師は二度宋国に渡り、禅師が伝えた禅のころは武士道の精神をはじめ、わび、さびのころ、庭園・水墨画・茶道・立花などの文化芸術から立ち居振る舞いなどの行儀や豆腐・みそ、精進料理などにいたるまで多大の影響を与えたといわれています。

今年はお茶西禅師の名を多く聞きました。わたくしたちの周りには日本人の精神と文化の根底にあるものを見なおして来年に繋げていきたいと思っています。



多摩校教師範

中村 宗洋

茶道部創立六十五周年、おめでとございます。世界平和を念じつつ慎みます。

て神仏に一盃を捧げ、限り無き茶道部のご発展をお祈りいたします。

雪待つ心は、白雪の如く、清らに柔らかな心と精一杯の準備の為の助け合いですね。感謝と敬う心を育む、最高の機会であります。この達成の佳き日に、ご一緒させて戴きます事、真に有り難きよろこびでございます。

冬霞や 表裏一葉の
葉茶と召せ
宗洋



高等学校顧問

赤塚 宏子

高等学校教師範

柴田 宗香

大妻女子大学茶道部の皆

様におかれましては、創部六十五周年、誠におめでとございます。また、この節目の年に、同じく席を持たせて頂きましたことを、大変ありがたく幸せに存じます。

私共、大妻中高茶道部は、中高校舎の茶室「己(こ)他(た)可(か)庵(あん)」にて、中学生が週に一回、高校生は週に二回、稽古をしています。

一年間の主な活動ですが、中学生は、まず四月末のオープンスクールで、略点前にて受験生をもてなします。九月の文化祭では立礼で添釜をいたしました。高校生も、文化祭では広間で茶会をし、また、二月末の、ひな祭イベントでは炉に釜をかけて、在校生に春のお茶を楽しんで頂きました。このような茶会を通じて、お客様に、美味しい一服のお茶を召し上がって頂けるように、一同稽古に励み、季節を感じながら、お茶を楽しむことも考えております。

日々の稽古に加え、高校生は合宿にもまいります。今夏は岐阜県多治見市を訪れ、美濃焼の歴史を学ぶとともに、作陶に取り組みま

した。昨夏の合宿では、京都の不審菴をお訪ねし、学校茶道研修会に参加致しました。緊張しながらも、お家元で頂いた一服は大変美味しく、強く印象に残ったようです。こうした経験が、本日皆様をおもてなしする糧になってくれていたらと願うばかりです。

中学生は、もてなされる側として、本日、高校席に皆様とご一緒に参加させて頂きます。客ぶりはいかがでしょうか。点前をする高校生は、お茶を始めて三年以上経つ者もおりますが、まだまだ茶の湯の世界の入り口に足を踏み入れたばかりです。温かくお見守り頂ければ幸いです。

これからも、茶の湯とは、こんなにも興味深いものなのだと感じ、末永く一服のお茶を楽しんでもらえる道標になれましたら：と思っております。



茶道部の沿革

- 一九四九年 茶道部創立。師範に柳澤宗淵先生を迎える。
- 一九六六年 茶室「大妻庵」が誕生。
- 一九七九年 柳澤宗淵先生が引退。齋藤宗雅先生を迎える。
- 一九八九年 創立四十周年を迎え、「茶道部だより」を創刊。
- 一九九〇年 校舎改築によりC棟地下一階に大妻庵が復元。
- 一九九四年 創立四十五周年を迎え、「茶道部だより」を刊行。
- 一九九九年 創立五十周年を迎え、「茶道部だより」を刊行。
- 二〇〇三年 齋藤宗雅先生が引退。浅賀宗容先生を迎える。
- 二〇〇四年 創立五十五周年を迎え、「茶道部だより」を刊行。
- 二〇〇八年 大妻学院創立百周年記念雪待ち茶会を催す。
- 二〇〇九年 創立六十周年を迎え、「茶道部だより」を刊行。
- 又、記念セレモニー、中高合同茶会を催す。
- 二〇一四年 創立六十五周年を迎え、現在に至る。

活動報告

【普段の活動】

部活動は、主に毎週火曜日と木曜日に行います。火曜日は自主練習をし、木曜日は先生に稽古をしていたできます。



新入生は、五月から袱紗さばき、足の運び方、割り稽古と進んで行き、点前や半東の役割だけでなく、自分がお茶を飲むというお客様様の作法の練習もしています。上級生は、下級生の練習を見たり、様々なお茶会に向けての練習を行います。今年の夏休みは、京都へ合宿に行きました。八月の稽古では、今年卒業された

先輩方をご招待する「朝茶会」に向けての練習をし、

九月の稽古では、十月に行われる「大妻祭 添釜茶会」に向けて練習を行いました。

後期に入ると、多くの行事に向けての準備が本格的に始まり、毎日が忙しくなります。

まず、十月の「大妻祭 添釜茶会」です。下級生は広間で棚の点前を、上級生は『大妻庵』で点前の稽古を行います。また、稽古と並行して茶券作りなどの様々な準備をしていきます。

そして、文化祭が終わりいよいよ、十一月に行う「雪待茶会」の稽古と準備が始まります。下級生は立礼席を、上級生は炉の点前の稽古をします。

本年は創部六十五周年を迎え、茶道クラブ多摩校と大妻高等学校茶道部との合同茶会を催すこととなり早くから準備を進め、普段以上の緊張感を持った中で稽古に励んで参りました。

そして、「雪待茶会」終了と共に上級生は引退となり、その後「初釜茶会」などの行事より、下級生が中心となって活動をしていきます。

【夏合宿】

五月女 未波

京都合宿では、予定していたお寺での稽古ができなくなり不安もありましたが、大きな問題も起こらず終えることができました。都合が合わず見学することは叶いませんでしたが、表千家不審菴を間近に見ることができました。



普段はお稽古であまり話すことがなかったのですが、京都を巡りながら皆さんと親睦を深めることができました。文化遺産をはじめとする古都の雰囲気と直接触れ、日本の伝統文化の繊細さや美しさという魅力を感じる事ができました。合宿での経験を元に精進

私は今までに茶道経験が全くなく、大学2年で茶道を始めました。そのため、他所の茶会に行った経験もなく、茶会は今回の添釜茶会が初めてでした。他の部員はほとんど皆経験があった

【添釜茶会】

沼田 みもり



していきたいです。



ため、水屋を中心に担当するとは言え、正直とても気後れしていました。当日はとても緊張し、点前をする時になると頭の中がほとんど真っ白になってしまいました。いくつも失敗もしましたし、反省すべき点は尽きません。これからの茶会ではその反省を生かせるよう日々精進してゆく所存です。また、添釜茶会では半東は担当しませんでしたので、そちらの稽古にも力を入れていきたいです。

【秋熟成茶の祭典2014】

立崎 若菜



十月二十五日に、大妻女子大学千代田キャンパスにて、「秋熟成茶の祭典2014」が行われ、私たち茶道部もこの祭典に参加させていただきました。狭山・静岡・宇治・鹿児

島の茶を試飲して、茶産地を当てるという楽しい催しです。



私たち茶道部は、立礼席の茶会を開催しました。抹茶は秋の熟成茶を使用し、菓子は柿を模した主菓子を、掛物は「一期一会」とても秋らしいお茶会となりました。

訃報

本年九月二十三日に茶道部創部の際に活躍されました卒業生の後藤歌子(玉田 歌子)様がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

年間行事

一月

初釜茶会

師範の浅賀先生に濃い茶を点てていただきます。一年の始まりとともに新しい茶道部がここから始まります。

二月

送別会

茶道部の卒業式。この時に上級生は浅賀先生からおゆるしとお免状をいただきます。

三月

さくら茶会

千代田区主催のさくらまつりの一環として開催されるさくら茶フェスティバルに参加させていただきます。

四・五月

新入生歓迎茶会

新入生に茶道の楽しさに触れてもらい、興味を持ってもらえるよう、お茶会を催します。

八・九月

合宿・朝茶会

昨年度卒業された先輩を招待して催す「朝茶会」、学園祭に向けて、強化合宿を行います。

十月

添釜茶会

学園祭の一環として行われるお茶会。毎年大勢の方が来てくださいます。

十二月

雪待茶会

靖国神社で行う学外茶会で、普段行う茶室とはまた違った雰囲気の中、身を引き締めて行います。

お茶会のご案内

次回OG稽古

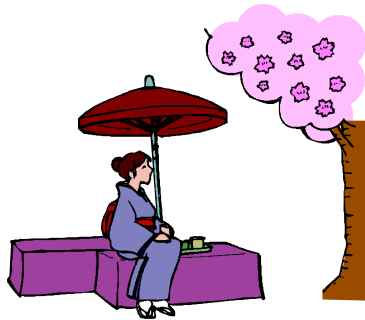
今年度も初釜茶会を催す運びとなりました。初釜茶会では、師範の浅賀先生に濃茶を点でていただきます。一年の始まりとともに新しい茶道部がここから始まります。ぜひご参加ください。

・日時 平成二十六年一月十日(土) 予定
十三時から十七時

・場所 大妻女子大学地下一階
アトリウム奥 和室・大妻庵

・内容 初釜

・参加費 三〇〇〇円



ブログ「妻茶びより。」

昨年度の大妻女子大学茶道部六十周年を機に、ホームページを開設しました。未公開のコンテンツもありますが、部員が書いているブログ「妻茶びより。」では普段の稽古の様子、御茶会のお知らせなど、随時更新中です。ぜひチェックしてみてくださいね。

URL : <http://otsumasadou.web.fc2.com/index.html>

校章紋入り 袱紗の販売

本学茶道部の茶会でお馴染みの大妻校章紋入りの袱紗を一枚六千円(送料込み)にて販売いたします。購入を希望される方は、お葉書またはメールでお問い合わせください。料金の振り込みに関してもその際にご連絡いたします。また、在庫がない場合は発送にお時間をいただく場合がございます。ご了承ください。

送料 一枚六千円
宛先 〒一〇二・〇〇七五

東京都千代田区三番町十二番地
大妻女子大学茶道部 袱紗係
Mail otsumasadou@yahoo.co.jp

《編集後記》

茶道部だよりを作るにあたり、先輩方や先生方のご指導、ご協力のおかげで発行することができました。この茶道部だよりによって、大妻女子大学茶道部を、少しでも皆様に知っていただけましたら幸いです。最後になりましたが、お忙しい中、ご指導とご協力いただきました先生方及び皆様方へ、厚くお礼申し上げます。

発行日 平成 26 年 12 月 14 日(日)
発行者 大妻女子大学茶道部
〒102-0075 東京都千代田区三番町 12 番地
責任者 立崎若菜
編集者 同上
Mail otsumasadou@yahoo.co.jp
HP <http://otsumasadou.web.fc2.com/index.html>